

平成 28 年度 麻生区市民提案型協働事業 中間報告

団体名（白山 1 丁目・ちょっと支援隊 ）																							
事業名（超高齢団地の“支え合い” 立ち上げ事業 ）																							
① 事業の概要	超高齢化した団地（新百合グリーンタウンさつき街区 1、2 号棟）で、住民のコミュニティ活動を活発化させ、公的サービスと併用するボランティア型生活支援を立ち上げる。 今年度は、この分野で著名な講師を招聘しての講演会の開催や、すでに住民の支え合いを実現している首都圏の先進事例を視察し、地域包括ケアシステムや高齢者の健康問題などを勉強する。住民とともに、地域の抱えている課題を理解し、良いコミュニティ形成のために何をすべきかを考える。それらを通じて、来年度以降の具体的な活動内容を検討し決定する。 並行して、従来から行っている様々なイベントを引き続き開催し住民相互の親睦を図る。																						
② 上半期（9 月末まで）の事業の取組状況	取組の経過		取組に伴う効果																				
	1）講演会開催 さつき街区集会所 ・ 6 月 12 日 堀田力・さわやか福祉財団会長 「ご近所の助け合い～全国で行われているいろいろな形～」 ・ 7 月 10 日 辻哲夫・東大特任教授 「在宅で最期まで～医療看護介護の連携と助け合いで可能に～」 <table><tr><td></td><td>①堀田先生</td><td>②辻先生</td><td>③新田先生</td></tr><tr><td>人数</td><td>70 人</td><td>61 人</td><td>59 人</td></tr><tr><td>60 代</td><td>21%</td><td>16%</td><td>14%</td></tr><tr><td>70 代</td><td>54%</td><td>43%</td><td>61%</td></tr><tr><td>80 代</td><td>16%</td><td>19%</td><td>11%</td></tr></table> 注）データには、敢えて 1 0 月開催（新田先生）分を含めた。 2）毎月のイベント開催（従来から実施） 繋がり形成			①堀田先生	②辻先生	③新田先生	人数	70 人	61 人	59 人	60 代	21%	16%	14%	70 代	54%	43%	61%	80 代	16%	19%	11%	アンケート調査結果（詳細は添付資料） ＊ちょっと支援隊の取組を評価する声が多数寄せられた。支え合いの仕組の構築を求める声が 9 割以上を占めた。 ・ 講演会の感想 良かった以上；①82%→②86%→③92% ・ 介護を必要となったら 自宅で過ごしたい；①②51%→③67% ・ 住民の支え合いの必要性 是非必要と必要；①95%→②89%→③94% ・ 支え合い活動に参加したいか？ 参加したい；①84%→②68%→③67% 注）○数字は左の表の回目を示す ・ 講演会アンケートにて「活動に参加したい」「支え合いが必要」と回答した方に対して、活動に参加しないか声をかけたところ、数名の参加に繋がった。
	①堀田先生	②辻先生	③新田先生																				
人数	70 人	61 人	59 人																				
60 代	21%	16%	14%																				
70 代	54%	43%	61%																				
80 代	16%	19%	11%																				
③ 課題と改善方法	・ 計画通りの進捗。40～50 歳代の参加が少ない→活動の認知度アップを図り参加を促す。声かけ。 ・ さつき街区に住んでいる住民の生活支援ニーズの把握→アンケート等 ・ 従来から取り組んでいる事業等についての経費申請ができないという制約の撤廃 事業目的に合致したことであれば、以前から実施していることには由として頂けたら有難い。 ・ 活動のために必要な設備を充実化するための備品購入上の制約（品目、単価 2 万円以下の制約） 個人のパソコン（ソフト）を使用せざるを得ない状況にある。また、今後、他の地域でのプレゼンテーション等の広報活動のために、プロジェクター等の備品が欲しい。																						

④ 下半期（3月末迄）の取組予定	1. 講演会開催 ・10月9日 新田國男氏（医師・全国在宅療養支援診療所連絡会会長） 「生き方・逝き方ガイド ～最後の暮らしと看取りを考える～」 ・2017年1月 水谷忠由氏（前厚労省老健局認知症対策室長） 「認知症対策」（仮題） 2. 先進地視察 ・10月 川崎市宮前区の「すずの会」 3. 来年度に向けてボランティア型生活支援の立ち上げに関する検討 支援内容、支援隊体制、PR方法、スケジュール、などの検討 4. 事業結果報告
---------------------	---